

愛と農のメッセージ届ける

～「平成29年度青森県家の光大会」記事活用体験発表会で最優秀賞～

12月6日、JA青森中央会が主催した「平成29年度青森県家の光大会」記事活用体験発表会で当JA女性部石川支部の對馬照子さんが最優秀賞を受賞した。

對馬さんは、誰でも参加できる「わいわい交流会」で、「家の光」を参考に料理や手芸教室などを開き、女性部員が13人増えたことなどを紹介。これからも地域の人や時代を担う子どもたちにたくさんの愛のメッセージ・農のメッセージを届けていきたいと発表した。

對馬さんは25日に来組し、受賞の喜びを報告。2月に神奈川県で開かれる全国大会に県代表として出場する。



全国大会に出場する對馬さん（右から2人目）

職員育成に役立てて

～大川記念農業教育基金協会が当JAへ助成～

大川記念農業教育基金協会（鎌田美春会長）は12月27日、JA経営マスターコース参加へ一部を助成をした。

同コースは、JA全国中央会が主催し、経営学を中心とした学習プログラムのための基礎となる農業協同組合監査士資格試験の受験に向けた学習と、協同組合の理念や経営の現状などについて学習し、広い視野をもつ職員の育成を目指す。平成29年度は、当JAから1人が参加したことから、教育を目的とする同基金協会が一部を助成した。

鎌田会長は「職員育成のために役立ててほしい。今後も同コースへの参加を促し、教育に努めてほしい」と話した。



左からJA経営マスターコースに参加中の菊池真矢主任、工藤友良組合長、鎌田美春会長

品質高く好評価

～尾上販売センター管内平成29年産トマト販売報告会～

尾上トマト部会と園芸生産出荷協議会トマト部会は12月15日、平成29年産トマト販売報告会をアップルランドで開き、生産者や市場関係者ら44人が出席した。

全国的に天候不順の影響で品薄感から販売単価が堅調に進み、尾上販売センターでの出荷数量は496ト（前年比107%）、販売額は1億6700万円（前年比116.9%）、1キロ平均単価338円（前年比109.2%）となったことを報告。

尾上トマト部会の山口知治部会長は「安定的な生産と市場の要望に応えるトマトを作っている」と呼び掛けた。



販売報告を聞く生産者

力合わせて「よいしょ」

～黒石地区青年部餅つき～

黒石地区青年部（工藤大輔部長）は12月28日、浅瀬石支店で正月用の鏡もちを作った。

同部員が栽培したもち米250キロを使い、朝早くから20人が作業に取り掛かった。餅つきには、臼と杵の使用にこだわることで、伸びが良くしっとりとした餅になる。収益は青年部の研修費などにあてられる。

工藤部長は「新しい部員も加わり、部員が集まるきっかけとなる。元気で顔を合わせることができうれしいので、楽しみながら活動していく。スマートフレッシュの技術を学ぶための海外研修をしたい」と話した。



力強く餅をつく青年部員